

開設講座名	【選択】養護教諭のための フィジカルアセスメント	担当講師	丹 佳子		
講習会場	山口県立大学（北キャンパス） 5号館 E312 教室	会場所在地	山口市桜島 6-2-1		
開設日	令和3年8月23日（月）	時間数	6時間	受講定員	20人
募集期間	令和3年5月16日～5月30日	履修認定 時期	令和3年9月30日まで		
履修認定 対象職種	養護教諭	主な 受講対象者	養護教諭		
受講料等総額	6,000円	うち受講料 以外の経費	0円		
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護教諭が行う学校救急処置の特性が理解できる。 ・ フィジカルアセスメントの目的・基本技術について理解できる。 ・ 養護教諭が行うフィジカルアセスメントの特性について理解できる。 ・ 学校救急処置を行うにあたって、自分自身が実施してきた判断の方法について振り返り、今後の学習課題を明確にすることができる。 					
【講習の概要】					
<p>看護師ではなく養護教諭が行うフィジカルアセスメントの意義を確認するとともに、フィジカルアセスメントの基本技術、目的、緊急度・重症度判断を導く思考プロセスを学び、保健室の応急手当場面で役に立つフィジカルアセスメントを中心に演習をまじえながら解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の共有：グループディスカッション（2～3Gに分かれて） 判断困難であった事例をあげながら、内科的疾患や外傷判断で困ることを明らかにする。 2. 学校において養護教諭が行う「救急処置・看護」について 様々な役割が期待されている養護教諭であるが、その役割の一つである「救急処置・看護」の機能を再確認する。 3. フィジカルアセスメントとは 看護師が行うフィジカルアセスメントと養護教諭が行うフィジカルアセスメントの違いを解説する。また、緊急度・重症度判断を導く思考プロセスを意識することの重要性についても説明する。 4. フィジカルアセスメントの基本技術 フィジカルアセスメントの基本技術である問診・視診・触診・打診・聴診技術について演習を交えながら解説する。 5. 養護教諭が習得すべきフィジカルアセスメント技術 養護教諭が身につけるべきフィジカルアセスメントについて演習を交えながら、解説する。 					
【評価の方法・評価基準】					
<p>評価の方法：筆記試験</p> <p>合格：・養護教諭が行う学校救急処置の特性が理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フィジカルアセスメントの目的・基本技術について理解できる。 ・ 養護教諭が行うフィジカルアセスメントの特性について理解できる。 ・ 自分自身が実施してきた判断の方法について振り返り、今後の学習課題を明確にすることができる。 </p> <p>不合格：上記以外</p>					
【テキスト・参考資料】					
<p>必須ではないが、主要参考文献として以下のものをあげておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大谷尚子，他編著：養護教諭のためのフィジカルアセスメント，見て学ぶ応急処置の基礎基本，日本小児医事出版社，2011 ・ 永井利三郎監修，荒木田美香子，池添志乃，他編：初心者のためのフィジカルアセスメント：救急保健管理と保健指導，東山書房，京都，2008 ・ 杉浦守邦：養護教諭のための診断学＜内科編＞，東山書房，京都，1990 ・ 杉浦守邦：養護教諭のための診断学＜外科編＞，東山書房，京都，1989 ・ 横山美樹：はじめのフィジカルアセスメント，メヂカルフレンド社，東京，2009 					
【受講者への伝達事項】					
<p>できるだけ受講者相互に実施をしながら理解を深めていきたいと思うので、Tシャツ・トレーニングウェア等を用意して（あるいは着用して）来て下さい。聴診器など器具は大学で準備します。</p> <p>「課題の共有：グループディスカッション」を最初に行いますので、各自で、判断困難事例などがありましたら、簡単にまとめておいて下さい。</p>					